

ゲーデ弦楽四重奏団



やわらかく澄んだ音色 想像をふくらませる表現力

2025年 **10月31日(金)** 開演 18:30
一関文化センター 中ホール (開場 17:45)

チケット料金 [全席指定 / 税込]

大人 2,500円 (当日 3,000円)
小中高生 無料 (一関文化センター
窓口でのみの取扱)

プレイガイド 7/24(木) 発売開始

一関文化センター
小原書店
インターネットチケット



- ◇ ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番「アメリカ」op. 96
- ◇ 日本の歌メドレー
- ◇ タンゴメドレー
- ◇ エンニオ・モリコーネ：ニュー・シネマ・パラダイス
- ◇ アストル・ピアソラ：天使のミロンガ
- ◇ ミッシェル・ルグラン：シェルブールの雨傘
- ◇ アストル・ピアソラ：リベルタンゴ
- ◇ シュトラウス2世：美しく青きドナウに

*演奏者の希望により曲目を変更する場合がございます。

※ 6歳未満入場不可 ※ 車イス席あり (一関文化センター窓口・電話にてお申込みいただけます)

※ 当日は駐車場が大変混雑します。公共交通機関のご利用、近隣の市営・民間駐車場などのご利用をご検討ください。
また余裕をもってお越し下さい。

主催：NPO 法人一関文化会議所

共催：NPO 法人フレンドシップ・コンサート

協賛：北日本通信(株)

ゲーデ弦楽四重奏団

ゲーデ弦楽四重奏団は東日本大震災直後の2011年10月に、ウィーン・フィルはじめほとんどの海外の演奏家たちが日本公演を中止する中で、敢えて日本の人々を勇気づけようとダニエル・ゲーデが実弟であるセバスティアン・ゲーデ（NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団団員及びバイロイト祝祭管弦楽団団員）や幼馴染の名手ステファン・フーヴァー、マティアス・シェスル（両名ともにバイエルン放送交響楽団団員）と共に創立した弦楽四重奏団です。すでに2011年、2014年、2017年及び2023年に日本公演を行い、その素晴らしい演奏に、スーパー・カルテットとして圧倒的な評価を獲得しました。



ダニエル・ゲーデ（ヴァイオリン） Daniel Gaede

ウィーン フィルハーモニー管弦楽団前コンサートマスター
ベルリン バロック ゾリステン音楽監督・読売日本交響楽団前コンサートマスター

1966年ドイツ、ハンブルクに生まれる。6才よりヴァイオリンを始め83年ドイツ国内コンクール第1位及びカール・フレッシュ国際コンクール優勝。1986年にはクラウディオ・アバドの主宰するヨーロッパ・ユースオーケストラのコンサートマスターに就任、1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の要職にあります。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサートマスターを務めました。また2013年から3年間読売日本交響楽団のコンサートマスターの任にありました。わが国ではウィーン・ピアノ五重奏団、ゲーデ弦楽四重奏団、ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団及びメランデ・ピアノ三重奏団他、多彩なコンサート活動の傍ら積極的に後進の指導にあたり、現在ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ奏者達で編成されるベルリン・バロック・ゾリステン音楽監督を務めています。また東日本大震災で被災した人々に寄り添いたいとの希望から、すでに兄弟、妻、家族、友人たちと共に都合9回にわたって東北を訪問し学校、病院、地域センター等で100回以上のボランティア・コンサートを行っています。日本での活躍は目覚ましく霧島国際音楽祭や軽井沢国際音楽祭の審査員として毎年来日し、多くの若い演奏家を育てる傍ら演奏活動も積極的に行っています。2018年にはNHK制作の「奇跡のレッスン」に出演し、公立中学校の弦楽クラブの生徒を指導し、その優れた指導法が多くの視聴者に大きな驚きと感動を与えました。



ステファン・フーヴァー（ヴァイオリン） Stephan Hoever

バイエルン放送交響楽団団員・ミュンヘン弦楽四重奏団団員

1965年にドイツ、エッセンに生まれる。幼少時より父親からヴァイオリンの指導を受け、デュッセルドルフのシューマン・アカデミーでミカエル・ガイザー教授に学び1992年に首席で卒業しました。更にDAAD奨学金を得てアメリカに留学し、インディアナ大学ブルーミントン音楽学校でフランコ・グッリ教授の教を請いました。そしてクラウディオ・アバドの主催するヨーロッパ・ユースオーケストラで第2ヴァイオリンの首席奏者を務めました。1993年から1995年までチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団団員として活躍し、1995年以来バイエルン放送交響楽団団員となりました。またミュンヘン弦楽四重奏団のメンバーとしても積極的に活躍しています。趣味は登山ですが腕前はプロ級でマッターホルン等多くのルートを制覇しています。



マティアス・シェスル（ヴィオラ） Mathias Schessl

バイエルン放送交響楽団団員

1967年バイエルンの州都ミュンヘンに生まれる。ゲアハルト・ザイツ教授のもとヴァイオリンの指導を受けていましたが、1987年にヴィオラを専攻することとし、父親である名ヴィオラ奏者フランク・シェスルの指導を受けました。1984年から1990年までザルツブルク音楽院に学び、トーマス・リーベル及びキム・カシュカシアンに師事しました。このザルツブルク音楽院時代にはすでに演奏家として、ハンガリー生まれの名ヴァイオリニスト、シャンドル・ベグの主宰するモーツァルトウム・カメラータ・アカデミカの一員として活躍しています。1993年にはスイスの名門チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に就任し、1998年には郷里の誇りであるバイエルン放送交響楽団団員となりました。



セバスティアン・ゲーデ（チェロ） Sebastian Gaede

NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団団員・バイロイト祝祭管弦楽団団員・エルプチェリステン団員

1967年にドイツ、ハンブルクに生まれる。5才よりチェロを学びハンブルク音楽アカデミーに進み、ウォルフガング・メルホーン及びベルンハルト・グメリンの指導を受けました。1983年ドイツ国内コンクールで優勝し、1986年にはエドアルド・ゼーリング賞を受賞しました。1988年まで2人の兄（トーマス・ゲーデ及びダニエル・ゲーデ）と共にゲーデ・トリオを組織しドイツ国内外で活躍しました。1986年から1990年までクラウディオ・アバドの主催するヨーロッパ・ユースオーケストラに所属しています。1992年以来ハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団団員となり、2014年に高水準の演奏技術と卓越した音楽性により世界的地位を確立した北ドイツ放送交響楽団（現NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団）に移籍しました。1995年からバイロイト祝祭管弦楽団のレギュラーメンバーでもあり、また室内楽奏者としても多くの演奏会に出演しています。